



第24回自治労青年女性中央大交流集会 実行委員会ニュース

第 1 号
2024年3月15日

発行責任者
第24回自治労青年女性中央大交流集会実行委員会

東京都千代田区
六番町1

☎03-3263-0271

全国の仲間と 交流しまなびあおう

6月14～16日
in 山中湖

前々回第22回は中止、前回第23回集会はコロナ禍、40県本部1社保労連346人の仲間がTOC有明（東京都）に結集した。↑写真は、第21回山中湖での集会で、40県本部1社保労連 518単組、1,749人（青年1,210人・女性539人）が結集し、全国の仲間と運動交流を行った。

一人ひとりの実践につながる集会へ 各県本部で実行委員会体制の確立を

第24回自治労青年女性中央交流集会 本部実行委員会体制

- **実行委員長**
石上 千博（中央執行委員長）
- **実行委員長代行**
木村 ひとみ（中央副執行委員長）
- **副実行委員長**
川辺 由利（女性部長）
- **事務局長**
兒玉 聖史（青年部長）
- **事務局次長**
内田 尚子（女性部副部長）
松長 拓朗（青年部副部長）
- **常任実行委員**
青年部・女性部常任委員
- **実行委員**
各県本部青年部長・女性部長

第24回自治労青年女性中央大交流集会を6月14日（金）～16日（日）に、山中湖山中湖村で開催します。

新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけが5類に移行し行動制限がなくなった今回は、6年ぶりに山中湖村にて中央大交流集会を開催します。なお、暑さ対策として、これまで7月に開催していた時期を6月に早めて開催します。

自治体職場で働く労働者を取りまく環境は、限られた人員や厳しい財政事情の中で一生懸命働かされるなど、厳しいものとなっています。そのような中でも、交流集会運動をとおして、「職場での会話が少なくなり、自らの権利行使をためらっている」ことや、「財政状況を理由に自らの賃金要求、時間外申請を控えてしまう」等の抱えている課題が共有され、具体的な改善の運動実践につながっています。

だれもが健康で安心して定年まで働き続けられる職場・地域・社会をめざし、おかしいことはおかしいと声を上げることができるよう、全県本部・単組から多くの仲間の運動を持ち寄り、第24回自治労青年女性中央大交流集会に結集して交流し、まなびあいまししょう。

中央交成功に向けて

自治労青年部・女性部は、3月1～3日に自治労会館にて「座長・音楽活動家・教宣担当者養成講座」を開催し、20県本部50人（うち女性14人）の仲間が結集しました。6月に開催される第24回自治労青年女性中央大交流集会の成功にむけて、分散会討論の実践や労働歌、教宣紙の作成に取り組みました。

声を上げなくては変わらない

開會集會では、兒玉青年部長から基調提起がありました。「私たち労働者にとって大切な賃金や働きやすい環境については、資本金側からみれば人件費や環境整備のためのコストです。コストを安くしたい資本金側と、1円でも高い賃金が欲しい労働者側の利害は必ず対立します。だから



▲基調提起をする兒玉青年部長

こそ、働きやすい環境や賃金は私たち労働者が自ら声を上げなくては変わらない」ということを確認しました。分散会討論で職場課題を明らかにし、「『おかしい』とはおかしい」と声を上げよう」と提起しました。

分散会「なぜ」を深掘り

座長養成講座では、分散会討論を通じて職場に潜む問題点について深掘りをすることを意識して分散会を行いました。仲間と生活職場実態を話し、愚痴や不満が出る中で、その背景には何があるのかを「なぜ?どうして?」と参加者に問いかけ、根本の問題はどこにあるのか、深掘りすることの大切さを学びました。また、座長の役割は分散会を盛り上げることではない等の心構えを学び、参加者からは、「盛り上がりすぎて失敗だと感じていたがそうではないと気づけ、安心した」等の感想がありました。

学び広げる教宣紙づくり

5県本部5人が参加し、教宣紙作成に取り組み、限られた字数で集会から得たまなびや気づきをどう伝えるのか等の視点を学びました。「単組で教宣紙を作りたい」との感想が出されました。

現場実態 歌で表現

3県本部3人の仲間が参加し、労働歌の意義として「働いている実態や生活に共感し、たたかおうと士気を高める」視点を学び、既存の労働歌の替え歌を作り、職場実態を表現することの大切さや楽しさを学びました。

中央交への準備をすすめよう！



川辺女性部長

中央交のような交流集會運動では、事前事後の取り組みが重要です。参加者が持ち寄った自分たちの運動を多くの仲間と交流し、そこから得られた学びを今後の運動に活かしていくためには、ただ参加するだけでなく、これまでの運動の総括(振り返り)や、持ち帰ったものを県内や単組でどう広げていくかが重要です。まずは中央交に向けて、事前の取り組みを各県実行委員会で進めていきましょう。

8月 7月 6月 5月 4月 3月

下記を参考に、各県本部・ブロック・単組で取り組んでみましょう。

事後の取り組み

- 取り組み例（中央交から7月末～確定期へ）
県本部…事後集會を開催し、参加者の学びを県内で共有。実行委員会ニュースの作成、新たな取り組みの企画など。
単組・ブロック…参加者による報告会の開催、教宣紙での報告。学びを職場・単組で実践へ。

事前の取り組み

- 取り組み例（春闘期 3月から中央交まで）
県本部…単組オルグの実施や単組の課題や権利・賃金実態を集約。中央交にむけた事前集會の実施。実行委員会ニュースの作成など。
単組・ブロック…青年部・女性部オルグの実施(単組実態の把握)。学習会の開催など。